

## インド式美容術

著者	村山 真弓
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
雑誌名	海外研究員レポート
ページ	1-3
発行年	2009-04
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2344/00049970">http://hdl.handle.net/2344/00049970</a>

2009年6月  
海外調査員（デリー）  
村山真弓

## インド式美容術

ヨガにアーユルヴェーダにヘナ、インド式健康・美容術は日本でもとみに人気が高まっているようである。日本にいては、エステはおろかろくに化粧もしない私であるが、せっかくインドにいるのだからと試してみることにした。

最初困ったのは、長い髪の女性が大部分を占めるインドで、ショートカットをうまくやってくれそうな美容院探しだった。とりあえず娘の友人が紹介してくれた中流階層の住宅街カルカジにある美容院に行ってみた。口ではうまく説明できないので、ネットで適当な写真を印刷して持っていった。髪型のほうは、今一つ満足ではないのだが、気に入ったのは **threading** という顔の毛抜きである。まず専用の糸（木綿糸のようにやや太目でしっかりしている）を綾取りのように両手にかける。左手は親指と人差し指に糸を引っ掛けはさみのようにし、右手はまとめて糸の端を握る。さらに真ん中に糸を回して口に挟み、それを支柱にして眉や唇の周りの毛を抜いていくのである。実際、やってもらうと瞬間的にちょっと痛いのを我慢すれば、すっきりしてよい感じで、とにかくその職人芸に感嘆した。唇の上と眉だけならば100円もあればやってもらえる。



他のお客さんを見ていても、無駄毛の処理にはインド人はきわめて熱心だ。脇や背中、腕、足の無駄毛は、ワックス・ヒーターという専用の機械で暖めたワックスを塗り、すぐに紙を張って引き剥がす。見ているだけで痛そうだが、剃るよりもずっと肌に良いし、何よりワックスは砂糖、水、レモン汁から作ったホームメイドで有害な物質は入っていないと聞く。ワックスなどと言うので欧米から入ったものかと思ったらそうではなく、インドでは昔からおこなわれている方法だそう。

Beauty parlour、beauty salon と呼ばれる美容院の数は非常に多い。またテレビのコマーシャルを見ても、食べ物と並んで多いのが洗顔料やシャンプーなど美容関係の宣伝である。私が行き

始めた美容院 Shine Spa は、カルカジの商店街の 3 階にあり、客が 3 人もいれば一杯になるような小さなサロンだが、オーナー（マダム）であるカジャール・ドゥデジャさん、38 歳にとっては長年の夢のつまった店である。2008 年の 11 月にオープンした。

カジャールさんはデリーに接するハリヤナ州ファリダバードに生まれたパンジャブ人で、両親は娘が働くことに反対であったが、大学を出た後、美容や料理など様々な講習を受けた。美容の研修は 6 カ月で、このような講習会はあちこちで行われているようだ。一番好きだったのは美容で、それはおばあさん譲りらしい。彼女の祖母はとても美しい人で、ハーブやミルク、ターメリック、オレンジの皮などを使った美容法を自分でよく研究していたという。しかしせっかく身に着けた美容の知識や技術を仕事として活かす間もなく 21 歳で現在のデリー、カルカジに住む大家族の家に嫁いで来た。義理の父は女性が外に出ることにはさらに厳格で、また合同家族の中では重要な決定は全員の合意のもとでなされなければならない、カジャールさんの美容への関心は、家族や親族の結婚式などで腕を振るうことだけで満足せざるを得なかった。ただ幸いだったのは、夫が彼女の夢をよく理解してくれたことだった。義理の父が亡くなってから、3 人の息子達はそれぞれ別に住まいを構えることになり、元の家は、次男であった彼女の夫が長兄の所有部分を買って取り、義理の母と一緒に住み続けている。さらに隣の建物も購入して、1 階には、夫が浴室周りの部品やペンキなどを売る店があり、2 階に義理の母が住み、3 階に新しく開いたこの美容院とカジャールさん一家の住まいがある（以前、日系企業で働く日本人の女性が 1 年半ほど下宿していたことがあり、彼女の友達でデリー市内のコール・センターで働く日本人が 3 人ほどよく遊びにきていたようだ）。

「この仕事が好き！来てくれる人に特別な何かを提供できるようなビジネスにしていきたい」とカジャールさんは嬉しそうに語る。彼女のこだわりは身体に良い純粋なものを使うことだという。インド女性にとっての美のこだわりとは何ですかと尋ねると、第 1 に輝く長い黒髪、第 2 に肌の白さ（最近はずいぶん変わってきたそうだが）だそうだ。美しい黒髪のためには多くの人が自宅で、ココナッツ、マスタード、アーモンド、アムラ（インドスグリ。ネットで検索すると日本でもアムラ・ティーなどがダイエットにいいとして既に販売されていた）などのオイルを使ってマッサージし、1～2 時間後に洗髪する。これを週 2 回ほど行くと良いそうだ。洗髪しないで寝てしまうと大変だ。昔、バングラデシュに駐在していた時、3 歳の娘がココナッツオイルでマッサージをしてもらったのだが、そのまま寝てしまい、そのうちいきなり叫んだので見たら、甘い匂いにつられて、枕に蟻が沢山集まっていた。なおカジャールさんによれば、白髪が出始めたばかりの人だったらヘナがとても効果があるそうだ。4～5 種類のハーブを混ぜたアムラパックも髪には非常に効く。

お肌の手入れについても、ある種の豆の粉を使った伝統的なパックがあるそうだが、最近は美容院でお手入れしてもらう客が増えている。カジャールさんは、インドには 2 つの需要があるという。食べ物と美（美容とファッション）である。この 2 つの市場は、これから益々大きくなる見込んでいる。10～15 年前頃から、美容に関する考え方は大きく変わってきた。多くの若い女性が自分をスマートに見せたいと願い、美容の専門技術に対してお金を払うようになってきた。この背景には、テレビや映画の影響、さらにその背後にグローバル化や経済自由化がある。*Manushi* (2005 年 2 月、145 号) によれば、1991 年の自由化以前、口紅やコールドクリームの

ブランドは2つしかなかったが、いまや国内外のブランドが多種多様な化粧品を競って販売している。この業界、競争も厳しい。カジャールさんの店のあるカルカジだけでも、ざっと数えて50～60の美容院があるそうだ。そうした中で3階にあるという彼女の店は、場所的に有利とはいえない。宣伝の1つとして以前美容講習で知り合ったムンバイの有名なメイクアップアーティストに来てもらって7日間のメイクアップ講習会を開くそうだ。

インドに来られる予定の方、インド式美容術を試してはいかがでしょうか。Threading もいいですし、フェイシャル・マッサージ（肩と腕もやってくれます）は、250ルピー（約500円）から可能です。